学習院大学図書館
アカデミック・スキルズ

学生数　8,887 名
館員数　専従 18 名、非常勤・臨時 12.5 名
蔵書数　1,760,000 冊
所在地　東京都豊島区目白 1-5-1
ＴＥＬ　03-3986-0221
［数値：平成 25 年 5 月 1 日現在］

内容

課題の発見、情報収集・分析、レポート執筆、プレゼンテーションなどのアカデミック・スキルを身につけることを目的とする授業を図書館から提案し、教員とともに担当している。レポートの書き方の指導経験を持つ教員が担当する半期の授業とし、その中に情報検索技術の実習を組み込み、図書館員が担当する。

図書館担当回は、「情報を調べる」というテーマのもとに、データーベース、学術雑誌などの多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用する情報リテラシーの指導を行っている。2012 年度より、ライティングの個別添削を行わない講義型を新たに開講し、現在前期に以下の 2 コマが設置されている。

・「アカデミック・スキルズ(個別指導重視型)」2011 年度開講（半期全 15 回のうち、図書館担当が 3 回）
・「アカデミック・スキルズ（講義型)」2012 年度開講（半期全 15 回のうち、図書館担当が 2 回）

概要

対象者：学部生
実施期間：2011 年 4 月～
実施場所：学習院大学内教室
担当職員数：2～5 名（年度により異なる）

きっかけ

発案者：大学図書館情報サービス課

図書館で日々学生と対応していると、学生が大学における学習の基礎となるアカデミック・スキルを身につけていない、という現状にたびたび遭遇する。例えば、授業で論文を探すように言われたが探し方がわからない、授業で指定された図書を図書館で探せない（OPAC の使い方がわからない)、また卒論の仕上げ段階になっても引用文献の書き方がわからない、などである。

一方、図書館においては、日常的に情報検索の指導を行うのに加え、定期的に各種データベースの使い方やレポートの書き方に関するセミナーを開催している。実際に参加した学生によるセミナーの評価

は高く、検索技術等の習得は学習において必須であると捉えられている。

このような背景から、アカデミック・スキルを入学後できるだけ早い段階で身につけてもらうために、課題の発見、情報収集と分析、意見の表明（文書・口頭）といった問題解決の流れを教える授業の開設を提案した。

開始にあたって

準備期間：約１年５ヶ月

準備の概要：

・企画目的の明確化
・他大学における事例調査
・利用者教育の授業化企画案作成
・授業シラバス作成
・教員候補者の選出
・学内における授業設置申請書提出
・授業コンテンツ（パワーポイント、プレテスト、ポストテスト）作成

広報：掲示、チラシ、図書館ホームページ、新入生オリエンテーション内での案内等

費用：０円

苦労したこと・工夫したこと

・図書館員だけで授業を行うのではなく、教員の授業に図書館員が参加するという形をとったこと。
・「情報を調べる」を単独に扱うのではなく、レポートライティングの流れの中に位置づけたこと。

始めてよかったと思うこと

・授業内の課題に即し、情報検索の方法、検索した情報の入手、入手した情報の分析という「情報収集の流れ」をレポートライティングにおける過程の一部として位置づけることで、より実践的な習得の場を提供できた。
・図書館主催のセミナーでは説明することが難しい情報の種類や特徴、情報の評価、およびレポートライティングに必要とされる参考文献リストの書き方等の基本的な知識を体系的に学ぶ機会を提供できた。

今後の課題は…？

・授業内の課題により密着した、具体的な情報収集の事例紹介や、単なるデータベースの検索方法の説明にとどまらず、収集した情報を元に、学生自身が「自ら考える」動機づけとなるような進め方を教員と共に模索している。

伝えたいこと

・図書館員のみで授業を行う場合、成績評価を誰が行うか等、課題もあります。企画の段階で明確にしておくことが必要です。
・情報リテラシー教育の重要性を理解して下さる教員に趣旨を理解していただき、協働による授業設置に取り組んでみてはいかがでしょうか。

神戸学院大学
レファレンス・デリバリー

学生数　10,530 名
館員数　専従 7 名、非常勤・臨時 1.0 名
蔵書数　1,051,000 冊
所在地　兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬 518
ＴＥＬ　078-974-1551

内容

教員の授業内容にあわせて、必要な図書を教室まで運び、必要に応じて図書に関しての説明を加えるサービス。

授業内容と必要な資料についての、教員との事前の綿密な打合せが必要となる。

概要

対象者：学部生、大学院生、教員
実施期間：2008 年 4 月～
実施場所：当該授業の教室
担当職員数：4 名

きっかけ

発案者：図書館利用サービス部門

図書館による、教員への支援の 1 つとして開始した。教員の研究支援のみでなく、教員による学生に対する支援のお手伝いをすることが目的である。

開始にあたって

準備の概要：
レファレンスの知識の向上には常に力を注ぐ必要がある。
広報：掲示物チラシ（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館 HP
費用：特になし

苦労したこと・工夫したこと

・教員からの依頼により成り立つ企画であることから、常に、図書館を利用する教員との連携を密にし、図書館で行っていることについてのアピールをしている必要がある。

始めてよかったと思うこと

・図書館を利用しない学生に対しても、図書館について知らせることができ、図書館の利用を促進できる。
・教員のお手伝いをすることにより、教員の持つ図書館についてのイメージを変えることができる。

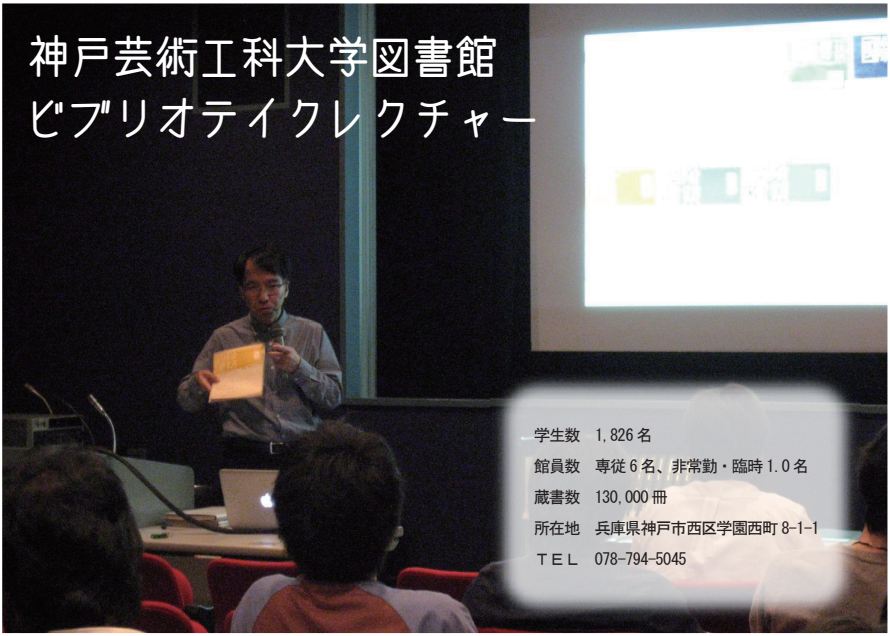
・構内を書籍を持って移動することにより、図書館についての広報の役割も示せる。

今後の課題は…？

現在は、依頼する教員の数は多くなく、繰り返し利用いただく教員に限られてきているため、広報を工夫して利用教員を増やしていく必要がある。

伝えたいこと

教員への周知を図る必要があります。理解していただければ、利用は継続してあるものと思われます。



内容

図書館で購入した特別な図書（または視聴覚資料）について、おおよそ年 2 回、教員によるレクチャーを開催。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2010 年 6 月～
実施場所：AV 室（図書館閲覧室内）
担当職員数：1 名
スケジュール：
講演：17：00～18：00
懇親会：18：00～19：00

きっかけ

発案者：前図書館長

教員からの推薦（依頼）で稀覯本（高額図書を含む）を購入する場合は、解説レクチャーを必ず開催していただくようにすれば、資料の有効活用につながるとの提案があった。現在は稀覯本に限ってはいない。

開始にあたって

準備期間：約 3 ヶ月
準備の概要：教員との調整（日程、配布資料等作成依頼他）、ポスター及びチラシの作成、広報活動、懇親会準備等
広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館ホームページ、メール、twitter
費用・用途：１回につき、1.7 万円程度（チラシ 1.1 万円、懇親会（菓子・飲料他）6,000 円）

苦労したこと・工夫したこと

大学の特徴上、レクチャーを担当いただく教員からポスターやチラシのデザインについて一定のレベルを求められるため、多忙な助手（教員）に依頼する必要があり、難しかった。聴講に参加してもらう学生の確保にも苦労した。

始めてよかったと思うこと

普段は閉架資料にしているため自由に手に取る

ことができない資料を、専門的な解説レクチャーとともに提供することができ、学生に喜ばれた。

今後の課題は…？

・特別図書を購入する予算の確保。
・多忙な教員に解説レクチャーを引き受けていただくことが困難。
・学生が参加できる日程の調整。
・ポスターやチラシの作成。

伝えたいこと

自館でもできていないことだが、普段から教員との間で図書館の企画・運営に協力していただける関係づくりが必要。

内容

教員をゲストスピーカーに迎え、軽食スタイルで気軽に教職員が参加できる勉強会を開催。図書館に増設されたアクティブラーニングスペース “Salle de Génie” を会場にすることで、教職員へ新しい図書館サービスの周知を行い、交流の場とする。学部長の主催であり、図書館では場所を貸し出すスタンスである。

概要

対象者：教職員
実施期間：不定期開催
実施場所：図書館内アクティブラーニングスペース Salle de Génie（サル ド ジェニ）
担当職員数：3 名

きっかけ

発案者：学部長

2012 年度に増設されたスペースの周知と、学部長発案の“世の中の流れを知る！”をテーマにした勉強会のタイミングが合い、開催となった。

開始にあたって

準備の概要：
・各種飲み物の準備
・学部長作成の開催通知の送信
広報：メール
費用・用途：1,000 円/回程度（飲み物）

苦労したこと・工夫したこと

・図書館では企画・運営に関わることはないが、主催者から当日の準備等の情報がなく、開催直前になって突然資料の印刷を依頼されて戸惑った。

始めてよかったと思うこと

・Salle de Génie の周知ができ、交流の場として活用されるようになった。

今後の課題は…？

・開催が担当職員の勤務時間外であること。
・飲食可能なスペースを提供することは、新しい試

みとして図書館サイドで発案したことである。しかし、利用者側は、図書館が飲食サービスを提供すると受け止めたようで、本務との関わり方が今後の課題と言える。

伝えたいこと

・図書館としては「場所を貸す」という意識でいましたが、実際はサポート業務に関わっているため事前の打ち合わせは必須です。

千葉大学附属図書館
リエゾンライブラリアン

学生数　15,062 名
館員数　専従 21 名、非常勤・臨時 25.9 名
蔵書数　1,394,000 冊
所在地　千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33
ＴＥＬ　043-290-2258

内容

「リエゾンライブラリアン」とはサービスではなく、各学問分野に対して様々なサービスを行うための仕組みであり、図書館員が担当の学部や分野を持ち、担当の教員・学生を対象にレファレンスや選書、ガイダンス等その他情報提供等を行うものである。

現在の具体的な取り組みとしては、選書や授業資料ナビ（PathFinder）の作成、図書館主催ガイダンスやデータベーストライアルの広報などを実施し、レファレンスについては現在準備中である。他にもポッドキャストを使った教員インタビューや利用案内もこの枠組みのなかで実施した。

なお、リエゾンライブラリアンは教員や授業との連携強化、図書館員の専門職性を高めるという点などから本学で実施しているアカデミック・リンクの重要なコンセプトの一つとなっている。

概要

対象者：学部生、大学院生、教員
実施期間：2007 年 4 月～
実施場所：全学
担当職員数：18 名

きっかけ

発案者：附属図書館

本学の第 1 期中期計画（平成 16 年度）に「授業に密着した情報提供等（ガイダンス等）の強化」を検討・実施する項目があり、教員と図書館員の協力体制を強化することとなった。その方法として担当学部の教員や学生を対象に仕事をするリエゾンライブラリアン制度を導入することとした。

開始にあたって

準備期間：約 18 ヶ月
準備の概要：学長に対してリエゾンライブラリアンに関する概要説明のプレゼンを図書館員が行ったほか、アメリカの大学図書館を訪問し、現状を調査した。リエゾンライブラリアンの仕組みを始めるには教員と図書館員の連携体制を作ることが不可欠なため、授業の内容に特化したパスファインダー（現在の授業資料ナビゲータ（Path-Finder））の作成に着手した。
広報：図書館内での仕組みなのでリエゾンライブラ

リアン自体については広報を行っていない。

苦労したこと・工夫したこと

千葉大学における教養教育である「普遍教育」と連携するため普遍教育センター長や各科目グループのリーダー教員との打ち合わせを行った。授業資料ナビゲータの作成については、協力してくれる教員の募集が難しいと思われたが、普遍教育センター長や各リーダー教員の強力なバックアップもあり、半年ほどで 15 名の教員の協力を得、29 科目について作成した。開始前の協議のなかでできた教員との連携が無ければ、作成することは難しかったと思われる。

授業資料ナビの作成では、ひな形の作成や公開・配布方法、図書館内での分担等初めてのことで手探り状態だったが、それぞれが通常業務も行いながら、館内での協力体制により作成科目決定から授業開始までが 3 ヵ月弱という短い時間で公開することができた。

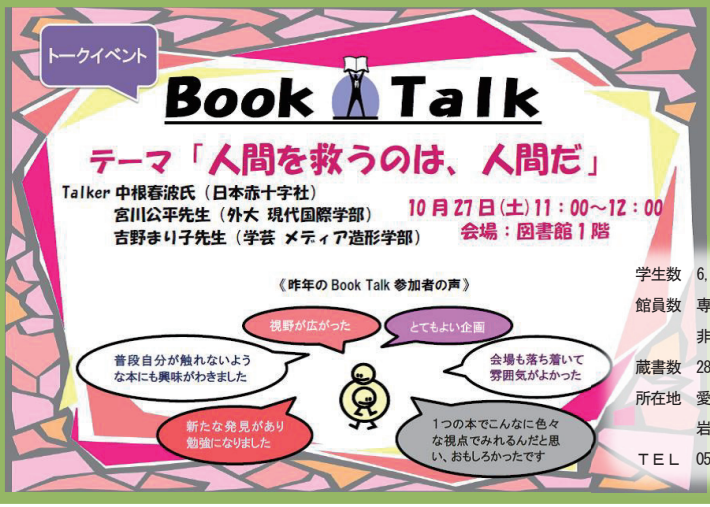
始めてよかったと思うこと

授業資料ナビの作成は、各図書館員が教員に直接連絡を取って行うため、教員が担当図書館員を個人として認識し、図書館に関する他の業務についても「とりあえず知っているあの図書館員に訊いてみよう」という教員が増えた。図書館員から見ても、個人的にコミュニケーションを行うことで授業資料ナビの話だけでなく、図書の発注の話や授業に関する質問などを教員に聞きやすくなった。

伝えたいこと

教員に連絡する時は、部署名だけでなく、個人名も出してください。また先生の研究分野に役立つ情報（例えばデータベースのトライアルなど）があるときは個人的にかつ積極的にお知らせしてください。ガイダンスや ILL、図書の発注など様々な業務で得たつながりを生かして、先生に「+α」の情報を提供していくことがポイントだと思います。

名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館　ブックトーク



学生数	6,676名
館員数	専従4名、非常勤・臨時1.0名
蔵書数	284,000冊
所在地	愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
ＴＥＬ	0561-75-1726

内容

大学祭協賛企画として、2011年より全ての参加者対象にブックトークを開催。またPRを兼ね、大学祭の前後に2週間程度、紹介する図書の展示とブックトーカーによるコメント付のチラシ配布を実施。

2012年度からは、ブックトークと同一テーマの上映会も同時開催し、本・語り・映像など様々な形を通してテーマをとらえてもらえるようにした。

（上映会場は図書館及び隣棟AVホールの2ヵ所）

2012 年度は、日本赤十字社のスローガンである「人間を救うのは人間だ」をテーマとさせていただいた。(使用にあたっては事前に日本赤十字社の許諾済。）ここでは2012年度の取り組みについて報告する。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：2012年10月

実施場所：図書館、マルチメディアラーニングセンター内AVホール

担当職員数：3名

当日のスケジュール：

～11：00　呼び込み

11:00　館長挨拶

11:05～11:35　ブックトーク(10分/人)

11:35～11:55　フリートーキング

11:55　終了の挨拶

終了後　館内自由見学(展示資料等)

実際は1人10分では話がおさまらず、フリートーキングの時間を縮めて対応した。

きっかけ

発案者：図書館

2010年に学内の同好会「外大読書会」と協力し、教員2名を交えた座談会を実施した。昼休みの短時間開催だったため、教員から「このような催しは大学祭で行うとよいのではないか」と提案された。

開始にあたって

準備期間：約4ヶ月

準備の概要：

①テーマを決める
②テーマにふさわしいブックトーカーを選ぶ
③ブックトーカーに交渉、OK が出れば打合せ
④紹介する本のコメントをもらい、本を用意する
広報：ポスター及びチラシ（館内・館外）、図書館 HP、ポータルサイトにて案内
費用・用途：1.5 万円程度（ブックトーカーへのお礼の品代、貼るパネル、カラーコピー代等）

苦労したこと・工夫したこと

・2012 年度は教員 2 名に加え、日本赤十字社のスタッフにもブックトーカーを依頼した。その縁で献血推進のキャラクター（けんけつちゃん）にも呼び込みを手伝ってもらったところ、大変な注目となった。ゆるキャラの威力はあなどれない。

始めてよかったと思うこと

・参加者アンケートをみると、「とても良かった」「感動した」「またやってほしい」等々好評であり、課員も達成感を得ることができた。
・同じテーマによる上映会の同時開催や献血活動の紹介など、広がりを持たせることでより多くの人々に知ってもらえ関心につながった。多方面において相乗効果があった。

今後の課題は…？

・「大学祭の各種催しと重なってしまい参加できず残念」という声があった。また、周囲がにぎやかなため異空間のように感じた人もいた模様。大学祭とずらして開催することは今のところ考えていないが、良し悪しである。

伝えたいこと

・テーマを決める際、大学の特性を考慮すると興味を持つ人が増えると思います。（本学には国際救援活動やボランティアなどの人道的援助に関心の高い人が多い）。
・日頃バックアップしたいと思っていることをこのような企画にのせると、アイデアが出やすいと感じました。多くの出会いもあります。何よりも図書館スタッフが楽しんで取り組まれるのが一番です。

献血推進キャラクター「けんけつちゃん」

阪南大学 図書館
HANNAN UNIVERSITY
大学HOME
交通アクセス
サイトマップ
お問い合せ
サイト内検索
情報検索
Webサービス
利用案内
資料案内
企画・学生サポート
蔵書検索
検索
マイライブラリ
データベース検索
検索マニュアル
HOME > 資料案内 > 新しく入った本 > おすすめの一冊
資料案内
新しく入った本
おすすめの本
資料リスト
利用ランキング
図書館用行物
学外の方へ
卒業生の方へ
蔵書検索
OPAC
貴重書アーカイブ
CAMPUS INFORMATION
HiOT
開館スケジュール
新着資料
映画・ドラマの原作
ベストセラー
テーマ図書
学生の輝入り文エッセ
おすすめの一冊
おすすめの一冊 本学の教員や図書館員のおすすめの本を紹介します。
バックナンバー： 2008年度 | 2009年度 |
悠久の歴史 ― 中国の漢字と詩に親しもう ―
推薦文：図書館長 松田 清（経済学部 教授）
学校では漢字の読み書きを長期にわたって学ぶが、漢字という象形文字の成り立ちはごく一部しか教わらない。漢字の歴史はおよそ3300年に及ぶという。エジプトの「ヒエログリフ」（神聖文字）は滅び、「シュメール文字」（楔形文字）や、クレタ島などで発掘された「線形文字」は用いられなくなったが、今日の日本でも、漢字のない生活は考えられない。しかし、漢字の起源に興味をもって学び、その由来の一端でも理解している人はそう多くはないだろう。漢字の成り立ちを知ると、漢字の見方が変わり、漢字のもつ興深さが見えてくる。
中国の漢詩には、四季折りの風景との交歓や、自然の美しさ、身体の老い、家族愛、人間の生涯、生物、道具などを詠ったものから、文化や歴史を詠じたものまである。いずれにも、中国人に固有の感性や思考が刻み込まれている。五言絶句、七言絶句、七言律詩といった漢詩のスタイルは、感情や思考の一瞬の変化をあざやかに凝縮して美しい。漢詩に触れ、とくに朗唱練習で、とくに深遠的なまざまざしさ、人間や自然、歴史が胸間を駆け巡っている。ぜひ、漢詩の世界の魅力にふれて欲しい。【全文を読む】
もっとも画数の多い漢字は？
麤麤麤

始めてよかったと思うこと

- 紹介するおすすめの一冊を図書館内の展示コーナーに配架することで利用者への PR となり、利用の相乗効果を生み出している。
- 読み物の要素が加わり、図書館 HP 内のコンテンツが充実した。
- 来館しない利用者への読書案内にもなっている。
- 外部より感想をいただくことがある。

今後の課題は…？

- ＨＰ上の掲載を現状月１回の割合で更新しているが、継続するための原稿収集が難しい。
- 読者のレベルに合った、またはレベルごとの読書案内の形式をとることの必要性。

伝えたいこと

- 原稿執筆者の負担など、継続可能なサービスであるか、広報手段はあるかなど、導入時に充分検討する必要があります。

書籍化された「おすすめの一冊」

展示コーナー

内容

学生用図書資料の充実

・大学院選書委員会
小金井図書館で実施。各専攻から選出された大学院生が、学部生および大学院生に有益な図書資料を選定し、既所蔵資料からも推薦図書を選定。新規購入分、既所蔵分とも展示する。

・教員選書委員会
小金井図書館で実施。洋雑誌継続タイトルの見直し、大学院選書委員会で選書された資料の購入可否を検討。

学習サポートの充実

・基礎ゼミガイダンス
市ヶ谷・多摩図書館で実施。1 年生に対して開講される演習授業単位で、基礎的な情報収集・活用方法、図書館の利用方法を実習形式で紹介。

・専門ゼミガイダンス
市ヶ谷・多摩図書館で実施。2 年生以上に対して開講されるゼミナール単位で、各ゼミの専門分野に特化した情報収集・活用方法を実習形式で紹介。内容については事前に教員と打ち合わせする。また、当該ゼミで必要とする資料について教員に聴取し、職員が行う和図書選書の際に購入。

・研究室サポートガイダンス
小金井図書館で実施。研究室単位で、各研究室の専門分野に特化した情報収集・活用方法を実習形式で紹介。内容は事前に教員と打ち合わせする。

知的援助を可能とする図書館職員の育成

・データベース講習会
新規データベース導入時に館員向けの講習会を実施。

・ゼミガイダンスに関する総括・反省会
定期的に実施し、改善点を全担当者で検討・共有。

概要

対象者：学部生、大学院生、教職員
実施期間：2011 年 4 月～
実施場所：図書館内
担当職員数：17 名

きっかけ

発案者：図書館将来計画策定委員会（図書館長・副館長、各キャンパスからの代表教員、図書館事務部職員により構成）

「法政大学図書館将来計画 2011-2015」の策定時に発案された。当計画は、「法政大学図書館将来計画 2004-2010」を引き継いだものである。各学部等の教育内容に応じた情報リテラシー教育の企画設計・実施を行う者、また教育・研究の現場と図書館の間を連絡調整（リエゾン）する者として、法政大学における図書館職員のあり方をリエゾン・ライブラリアンと位置付けた。

開始にあたって

準備期間：約 3 ヶ月（「法政大学図書館将来計画 2011-2015」検討・策定期間）

準備の概要：

- 2008 年度　ラウンドテーブルセッション「大学教育を支える図書館を目指して：Learning commons & Liaison librarian」を開催。
- 2009 年度　外部講師によるプレゼンテーション研修を実施。
- 週 1 回実施しているスタッフ会議等での企画立案・調整・連絡等打ち合わせおよびプレゼンテーションの練習。

広報：館内掲示物、図書館ホームページ

費用：なし

始めてよかったと思うこと

- 大学院選書委員会…大学院生による専門性を生かした選書が行われ、多岐に渡る研究領域の文献の網羅的な収集ができること。また各研究分野の資料現物に触れる機会を展示によって学生に提供できる。
- 教員選書委員会…洋雑誌継続可否について契約更新の際に迅速な判断が可能。
- 研究室サポートガイダンス、専門ゼミガイダンス…データベースや専門的な資料の存在を周知し、レポート、論文作成に際し活用する契機を学生に与える意味で、非常に有効。

今後の課題は…？

- 大学院選書委員会…主に市ヶ谷キャンパスで授業を開講するデザイン工学研究科・学部生対象の資料の所蔵館、展示場所が小金井図書館となっている問題の解決。
- 大学院選書委員会、教員選書委員会…学習用図書の評価・廃棄・更新に関する協力体制の構築。
- 研究室サポートガイダンス、専門ゼミガイダンス…教員による申込制であるため、さらに多くの学生に対する情報リテラシー教育の実施に向けた教員への働きかけ。
- 基礎ゼミガイダンス…演習形式の授業を開講していない学部の 1 年生に対する情報リテラシー教育について、該当する学部教授会への働きかけ。

伝えたいこと

図書館が連携（リエゾン）するべき対象は、教員・学生・職員とさまざまです。また連携の方法も、組織として動いて実現したり、個人単位のつながりから新しいサービスの発想が生まれたり、いろいろなケースがあります。

皆さんがもっているコミュニケーション力を活用すれば、「図書館の将来」という明るい道は、必ず開けて行くと思います。

市ヶ谷図書館入口

小金井図書館閲覧室

明治学院大学 横浜校舎図書館

レポートには、書き方がある

～アカデミックリテラシー・ミニレクチャー～

横浜キャンパス

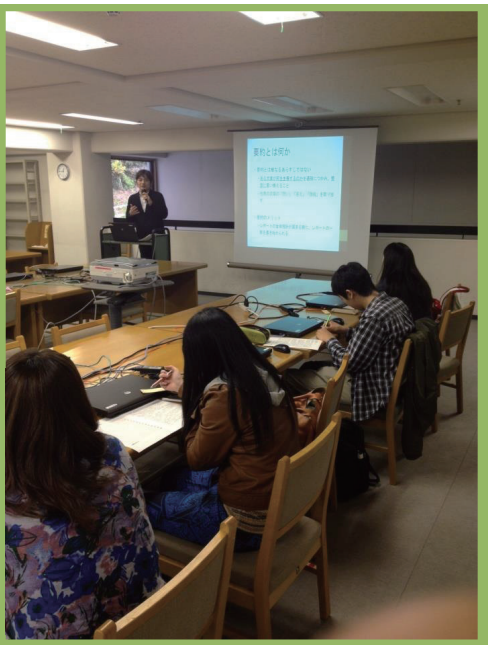
学生数　12,442名（白金校舎との合計）

館員数　専従5名、非常勤・臨時0名

蔵書数　389,000冊

所在地　神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

ＴＥＬ　045-863-2037



内容

「アカデミックリテラシー研究 1」は、大学で必要なさまざまな基本的学習技術を学ぶ、1 年次生向けの明治学院共通科目で、レポートの添削指導により、「問い」「論拠」「答え」のそろった論証の組みたてや、引用のルールなどを学ぶ。しかし履修希望者が多く、毎年抽選となるうえ、学科によっては選択できない場合がある。

そこで上記科目を履修しない学生のために、教養教育センターが横浜校舎図書館と、レポートの書きかたのエッセンスを学ぶミニレクチャーを共催した。すべての回を受講すれば、レポートの基礎的な書きかたがひととおり身につくが、気になる回だけの受講も可能。申し込みや予約は不要。ミニレクチャーでは、すでに全1、2年次生に配布した『アカデミックリテラシー・ハンドブック』を使用。

春学期アンケートから、秋学期は「問いの立て方」「情報検索方法」についてなど、学生のニーズに合わせた内容を追加して実施した。

概要

対象者：学部生

実施期間：2013年4月～2013年6月
2013年10月～2013年11月

実施場所：図書館第3閲覧室

担当職員数：2名

当日のスケジュール：

①会場設営（講師用PC起動、プロジェクター・スクリーン確認、マイク電源ON、折りたたみ椅子準備）

②会場OPEN、配布資料セット、着席誘導

③撤収作業

きっかけ

発案者：図書館

教員と利用者教育の打ち合わせ時に、教員から“レポート書法の選択科目がいつも抽選で漏れる学生が多く、それらの学生の救済策として実施している「レポートの書き方相談」の方も、場所が分かりにくいからかあまり利用がない”、という話が出たことがきっかけ。“それなら図書館内で課外講座として

実施できないか？図書館ならば場所としてわかりやすいし参加しやすいのでは？”という話が始まり、その流れから実現した。

開始にあたって

準備期間：なし

準備の概要：

場所の提供なので特に準備は必要ない。初年度は初めての試みだったため、広報に力を入れた（図書館ウェブのお知らせや館内放送など）が、2 年目からは参加人数が 10 倍近くになったので、広報もあまり必要なくなった。逆に座席が足りなくなったため、他部署から折りたたみ椅子を借りるなどの準備が必要になってきた。

広報：掲示（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館 HP、『明治学院共通科目ガイドブック』と、4 月の新入生対象の明治学院共通科目履修ガイダンスでの説明

費用：0 円

苦労したこと・工夫したこと

- 最初は参加人数が読めなかったことが苦労といえば苦労であったが、それ以外には特になし。
- 工夫した点は、これをきっかけにほかにも行っていた学内での学習支援の情報提供を一括して図書館ウェブ上でも提供を開始したこと。これらの一連のこころみから「図書館は学習情報の“ハブ”の役割を果たし、学生が次なる道を発見できる場となることを目指そう」という意識が出来てきた。

始めてよかったと思うこと

- 図書館内で学習に関する講座を教員が開くことにより、学生が「図書館を利用しよう」と思えるきっかけになっている。
- 教員とも継続して学習支援の相談ができる関係づくりと強化に結び付いている。

今後の課題は…？

受講者が年々増え続けており、今年は会場のキャパシティーとしては限界に達した。ニーズがあることは確かなので、回数を増やすなどの対策を講じる必要が出てきた。もしくは全学部が抜本的に初年次教育の枠組みの中でカリキュラムに組み込むなど構造的に対策する必要があるのではないかと考えられる。

伝えたいこと

教員のレクチャーという性格上、図書館主導で企画してうまくいくかどうかはわかりません。同種のサービスを企画するより前に、教員とのコミュニケーションを日常的に図れる関係づくりを目指すことが第一ではないかと思います。

明治学院大学横浜校舎図書館
校外実習報告展示

横浜キャンパス
学生数　12,442名（白金校舎との合計）
館員数　専従5名、非常勤・臨時0名
蔵書数　389,000冊
所在地　神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518
ＴＥＬ　045-863-2037

内容

教員から「来年校外実習に行く学生への情報提供と一般学生への関心喚起のための展示を実施したい」との依頼を受け実現させた。教員の目的に加え、さらに図書館の「場」を効果的に利用し広く学生へ図書館資料（現物）を使って展示し、情報収集方法への関心をも呼び起こせる企画とした。

また教員の申し出期間を延長し、大学見学の受験生にも本学での学びの様子の一端が知れる機会とした。

さらに期間中に展示主体である教員と学生による自由参加のワークショップを図書館内で実施した。

教員による展示のねらいは、国際学部の授業科目のひとつである体験型学習形態の授業『校外実習（Field Study）タイ、カンボジア』の成果を発表し、次年度履修する学生の授業選びの参考にしてもらいたいというもの。

展示概要は、写真＋キャプション＋関連書籍案内を一枚にしたものの展示、および、報告書の展示となっている。

概要

対象者：学部生
実施期間：2012年9月～2012年11月
実施場所：図書館内（1Fホール・グループ閲覧室）
担当職員数：1名

きっかけ

発案者：教員
教員との雑談がきっかけだった。

開始にあたって

準備期間：約2ヶ月
準備の概要：
・まず教員から企画書を作成、提出してもらった。
・それをもとに、館内の調整（他の展示や催しとの調整など）、展示資料の準備方法や展示場所、などの検討、決定を行った。
広報：図書館HP

苦労したこと・工夫したこと

・教員からの要望を正式に館内で検討する際の手順などが整備されていなかったため、進め方を考え

ながら実施した。

・パネルについても少しずつ完成したものから学生が持ち込む形だったため「日々進化する展示」と位置づけ宣伝した。

・館内でワークショップを行うに当たっても、そうした試みは初めてだったため、他の利用者への配慮や広報などの検討、実施を手探りで行った。

始めてよかったと思うこと

・学内で行われている授業、教育内容、方法の一端を知ることができ、図書館利用者教育の幅が広がった。

・教員の学生に対する教育関係のニーズも知ることができ、図書館として必要な資料、設備、場所、機能などを考えるきっかけとなった。

今後の課題は…？

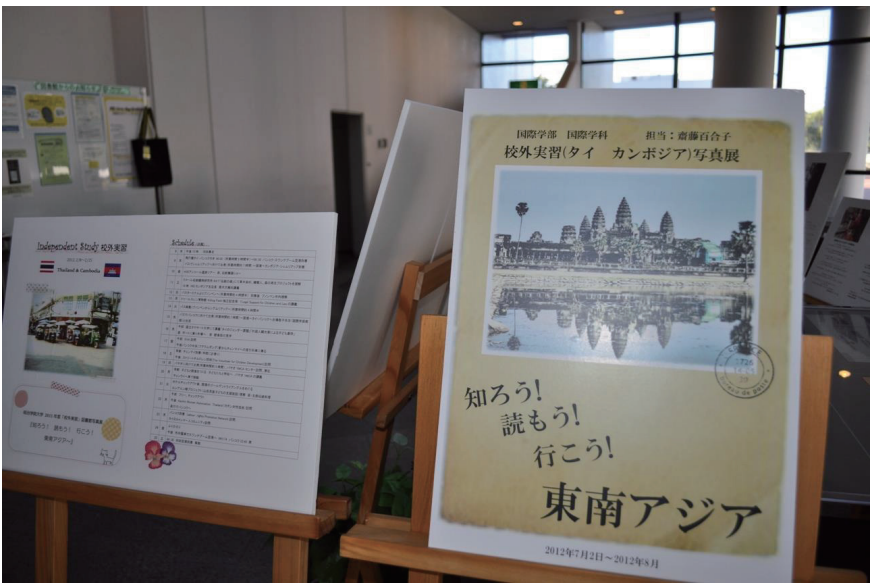
・教員の要望を正確に理解し、「なぜ図書館との連携が必要か」という視点からとらえなおして実施していく必要がある。必要があれば新たに提案もする。

・ただ単に「場所貸し」とならないよう、教員の目的達成と図書館の利用者教育推進という「Win-Win」の関係性づくりをしていくことにより、図書館に対する教員の信頼を得ることができ、また次につながっていく。

伝えたいこと

・教員の要望を鵜呑みにすることなく、エッセンスを聞き出し、通常の図書館サービスとのバランスを考えながら最良の方法を見出していく必要があります。

・創造的なやりがいのある仕事ですし、自分たちの未来の図書館を作っていく礎になりますので、苦労は多いかもしれませんが頑張ってください。



目白大学新宿図書館
読書推進プログラム

新宿キャンパス

学生数　6,646 名

館員数　専従 2 名、委託 10 名

蔵書数　237,200 冊

所在地　東京都新宿区中落合 4-31-1

ＴＥＬ　03-5996-3140

［数値:2013 年 5 月 20 日現在］

内容

図書館活動のひとつとして、学生の読書活動を支援するために企画している。

先生方や図書館職員の推薦する多数の書物から、図書館が選定した「目白の 100 冊」を対象として、「評論部門」と「読書と思索大賞部門」の 2 部門で、手書きによる応募原稿を募集する。

審査は、目白大学新宿キャンパス図書委員会が行う。学生らしい感性があらわされているか、深い思索が窺えるか、さらに文章に破綻がなく、形式が整っているかも審査基準となる。

優秀作には賞状および副賞として図書カードが贈られる（1 等 1 名 1 万円、2 等 2 名 5 千円、佳作若干名 3 千円）。選外作には参加賞として、図書カード千円が贈られる。

概要

対象者：学部生、大学院生

実施期間：2013 年 6 月～2014 年 1 月

実施場所：図書館カウンター他

担当職員数：主担当 2 名、その他全員体制

きっかけ

発案者：図書館

岩槻キャンパス開校時（1994 年）から実施されている読書感想文コンクールを参考にした。ネーミングを現行のものにしたのは 2008 年度より。学内の「読書感想文コンクール」では小学生レベルと思われ、入賞しても履歴書に書くのが憚られるという声に応えた。

開始にあたって

準備期間：約 2 ヶ月

準備の概要：

・「目白の 100 冊」を全学から選んでもらう（教員、スタッフ、学生の推薦）。重複は館長が調整した。

広報：館内・館外の掲示物、図書館 HP

費用・用途:20 万円程度（賞品 13 万円［参加賞含む］、表彰式 7 万円）

苦労したこと・工夫したこと

・100 冊のうち、10 冊を「評論部門」とし、2013 年度はテーマを「働くということ」とした。90 冊を自由選択の「読書と思索大賞部門」とした。
・100 冊の選定にやや時間がかかった。

伝えたいこと

・応募は自筆とし、図書館のカウンターで原稿用紙を準備しています。剽窃防止のためという消極的な理由もありますが、「丁寧に字を書く」という行為が、それなりに意味あることだと気付く学生もいます。

広報ポスター

和光大学附属梅根記念図書・情報館
『本を読もう！』『本を楽しもう！』
教職員おすすめ本紹介冊子

学生数　3,195 名
館員数　専従 11 名、非常勤・臨時 4.8 名
蔵書数　500,000 冊
所在地　東京都町田市金井町 2160
ＴＥＬ　044-989-7494

内容

1. 目的
- 学生が本に親しむ機会をつくるため
- 教員と図書・情報館職員の連携を図るため
- 図書・情報館広報活動活性化の一手段として

2. 方法
- 本学の教員に、学生に読んでほしい本をそれぞれ 3 冊選書の依頼をする。
- 冊子として刊行し、あわせて『本を読もうコーナー』を設置し、そこへ紹介された本を配架する。貸出の可否については、通常の扱いと同等とする。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2004 年 9 月 30 日～
実施場所：館内、館外にて小冊子を配布。メインカウンター横の書架に「本を読もうコーナー」を設置し、配架。

きっかけ

発案者：図書館の広報業務担当(2004 年当時)
2004 年度は、館長提案をふまえ、利用者サービスをさらに充実すること、図書館の外へ向けた情報発信の取り組みを始めることを課題として、業務の大きな見直しをおこなった。広報業務もその大きな柱として位置づけ、検討された。館長から、「本を読むという柱を明確にした方が良い」「図書館は良いサービスをしているけれど、なかなかそれが外に伝わってこない」という指摘があり、そこから『本を読もう！』が企画され、発行されることとなった。

開始にあたって

準備期間：11 ヶ月
準備の概要：
①教員への執筆依頼、原稿集約
②文章校正
③冊子について外部デザイン委託、内容校正、印刷発注

広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館ホームページ

苦労したこと・工夫したこと

・執筆者目標数の確保が一番の難点
・執筆申出者数を把握するために、第一次（申出）締切と第二次（原稿）締切に分けた点

始めてよかったと思うこと

・新入生に配付することによって、学生の読書推進の一躍を担っている。また図書館に関心を持つきっかけにもなっている。
・教員の図書館に対する「見方」が変わり、普段なかなか図書・情報館の活動に関わりがない教員も、原稿執筆によって、他の活動への協力を得ることができる。
・サービス提供側としては、「この先生がこのような本に興味を持っている」ということを知り、選書などの時に、視野も広がる上、役立つ。

今後の課題は…？

・退職、新任等により、年毎に教員の顔ぶれが変わるので、継続して、数年に一度発行する必要がある。
・これまで第一集から第三集を発行しており、2014年春には第四集発行を予定しているが、未だ執筆申出をいただけていない教員を、どのようにこの取組みに興味を持って関わっていただくかが課題である。
・学生が手に取りやすく読みやすい文庫本サイズにするなど工夫しているが、より学生に興味を持たせるための工夫が必要である。

伝えたいこと

普段図書館の中で業務を行っていると、特定の教員のみと関わることが多いかと思いますが、『本を読もう』という小冊子発行の目標に向かって、教員とともに取り組むことができます。また、ここではある意味「著者（教員）」と「編集者（図書館員）」のような関係が生まれますが、冊子が出来上がった時は言いようのない連帯感が現れます。

さらに、学生も普段授業で教わっている先生がどんな本に興味を持って、紹介しているのか、非常に興味を持っている様子です。「あの先生がこんな面白い本を紹介している！借りていこう！」という場面もあります。図書館の日常業務の傍ら、教員を巻き込んで一つの目標に向かい、学生の本を読むきっかけを提供できるのでおすすめです。